

神学・組織神学専攻（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目：第1外国語（英語）

試験時間：（60）分

I. 次の英文を読んで、以下の問いに答えなさい。

① In the Eucharist, the crucified and risen Christ, invisibly but really, lovingly presents to the Father his self-offering on behalf of all people and, mysteriously but truly, draws them into his own self-offering. ② In the celebration of the Eucharist, the administration of the other sacraments, and beyond, but supremely in and through the celebration of the Eucharist, Christ continues his high-priestly, mediating role not only for the faithful who take part in the liturgy but also for all human beings and, indeed, the whole created world.

Gerald O'Collins, *Christology: Origins, Developments, Debates* (Waco, Texas: Baylor University Press, 2015), 113.

1. 下線部①を日本語に訳しなさい。
2. 下線部②を日本語に訳しなさい。

II. 次の英文を読んで、以下の問いに答えなさい。

Peter C. Phan eds, *The Cambridge Companion to the Trinity* (Cambridge: Cambridge University Press, 2011), 97.

1. 下線部①を日本語に訳しなさい。
2. 下線部②を日本語に訳しなさい。
3. 下線部③を日本語に訳しなさい。
4. 下線部④を日本語に訳しなさい。
5. 下線部⑤を日本語に訳しなさい。
6. 下線部⑥を日本語に訳しなさい。
7. 下線部⑦を日本語に訳しなさい。
8. 下線部⑧を日本語に訳しなさい。
9. 下線部⑨を日本語に訳しなさい。

神学専攻（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目：専門科目（カトリック神学の基礎知識についての筆記試験）

試験時間：（60）分

1. 聖伝と聖書および教導職の関係をカトリック教会はどのように考えているのか。第二バチカン公会議公文書『神の啓示に関する教義憲章』（*Dei verbum*）の7項～10項を踏まえて説明しなさい。その際、神の民である教会における聖霊の働きについて特に留意して論述しなさい。

2. 「神の御子の受肉」と「キリストの祭司職」は人類の救済においてどのように関係しているのか。ヨハネ福音書3章16節～17節とヘブライ人への手紙4章14節～5章10節を踏まえ、さらに以下に引用する教皇フランシスコの回勅『主はわたしたちを愛された』62項を参照したうえで説明しなさい。その際、人間がその生において避けることができない苦しみや悲しみといった現実が、神との交わりにおいてどのような意味を持つようになったかも論じなさい。

「教父たちは、キリストの真の人間性を否定していた人や相対化していた人に対して、主の人間的な感情が具体的に触れることのできる現実であったということを強く主張しました。たとえば、聖バジリオは、主の受肉は想像の産物のようなものではないと考え、『主は自然な感情を備えておられた』と強調しました。また、聖ヨハネ・クリゾストモは、『もしキリストが人間であるわたしたちの本性をもっていなかったなら、何度も悲しみを経験することもなかったでしょう』と説明しています。

聖アンブロジオは、『主は魂をご自分のものとして受け取られたので、魂がもつ感情も同様に受け取られた』と述べました。さらに聖アウグスティヌスは、キリストが人間的な感情を受け取られたことにより、もはや恵みの生から切り離されることのない現実となったとして、次のように語っています。『わたしたちの主イエス・キリストは、人間の脆さによるこれらの感情、また同様に人間の弱さをもつ肉体、そしてその人間の肉体の死を、必要に迫られてではなく、自ら進んで受け取られました。それは、わたしたちが人間としての試練の中で悲しみや苦しみを感ずるときであっても、そのことによって自分が神の恵みから遠ざけられていると思わないようにするためでした』。

最後に、ダマスコの聖ヨハネは、キリストが人間性において真に感情を経験されたということは、わたしたちの本性を部分的ではなく完全に受け取られたあかしであり、それによって人間本性の全体をあがない、変容させるためであったと考えました。つまりキリストは、人間の本性を構成するすべての要素を引き受けることによって、それらすべてを聖化なさったのです。」

（教皇フランシスコ回勅『主はわたしたちを愛された』、
カトリック中央協議会、2025年、62項〔一部改変〕。）

組織神学専攻（博士前期/修士・**博士後期**・前後期共通）

試験科目：第2外国語（ラテン語）

試験時間：（60）分

問題1 次の文章を日本語に訳しなさい。

出典：*Evangelium secundum Lucam*, 10:38-42, in *Biblia Sacra Iuxta Vulgatam Versionem*, Deutsche Bibelgesellschaft, 2007.

問題2 次の文章を日本語に訳しなさい。

Quia vero ex compositis simplicium cognitionem accipere debemus et ex posterioribus in priora devenire, ut, a facilioribus incipientes, convenientior fiat disciplina, ideo ex significatione entis ad significationem essentiae procedendum est.

出典：Thomas Aquinas, *De ente et essentia*, in *S. Thomae Aquinatis, sermo seu tractatus De ente et essentia*, edidit Ludovicus Baur, Aschendorff, 1933.

問題3 次の文章を日本語に訳しなさい。

出典：Anselmus Cantuariensis, *Proslogion*, Capitulum II: “Quod vere sit Deus”, in *S. Anselmi Cantuariensis Archiepiscopi Opera Omnia*, tomus primus, ad fidem codicum recensuit Franciscus Salesius Schmitt, Fiedrich Frommann Verlag, 1968.